

富山市科学文化センター研究報告第29号(2006)

要旨集

原著

<生物系>

- 布村 昇・佐竹 潔：小笠原諸島母島の淡水域から発見されたイソコツブムシの1新種
- 布村 昇：八重山諸島西表島から発見されたツブムシの1新種
- 布村 昇：北海道から発見されたニセウノ科等脚目甲殻類の1新種
- 布村 昇：カンボジア、トンレサップ湖から発見されたエビノコバン属の1新種
- 朝倉 彰：日本海浅海域ヤドカリ類（甲殻亜門：十脚目：異尾亜目：ツノガイヤドカリ科、ヤドカリ科、ホンヤドカリ科）およびツノヤドカリ属の1新種の記載
- 佐藤 卓：環境因子と *Pinus parviflora* の針葉形質の関係

短報

- 南部久男・山田 格：富山湾における鯨類の記録（2005年）
- 太田道人：富山県新記録の植物（18）
- 市川真史：各種医用画像診断装置の一般向け原理説明のための原理模型の開発 1
- 荒木克昌・小林周一：庄川で確認された昆虫類の記録
- 朴木英治：立山における標高別の酸性雨と霧水の違いに関する調査結果 2004

資料

- 田中 豊：富山市科学文化センターでの館務実習について—事例報告—
- 二橋 亮・二橋弘之：富山県のトンボ（2005年度記録）

原著

小笠原諸島の淡水域から発見されたイソコツブムシの 1 新種

布村 昇・佐竹 潔

小笠原諸島母島の淡水域から発見されたイソコツブムシ属の 1 種を新種 *Gnorimosphaeroma boninense*(和名:オガサワラコツブムシ:新称)として記載した。本種は日本各地の潮間帯に分布する *G.hoestlandti* Kim&Kwon と類似し、特に第 1 胸肢腕節と前節に 2 又した剛毛を持つことや第 2 胸肢前節基部の内側が膨らんでいることなどの共通点を持つが、(1) 第 1 胸肢腕節後縁の剛毛数が少ないこと (2) 第 1 触角の鞭節数が少ないこと、(3) 腹肢の剛毛が少ないこと、(4) 第 7 胸肢腕節に多くの剛毛を持つことなどの点で区別される。本種のコタイプは富山市科学文化センター (TOYA Cr-13146) で保管される。

八重山諸島西表島浦内川河口から発見されたツブムシの 1 新種

布村 昇

沖縄県西表島の浦内川河口干潟から発見されたコツブムシの一種を新種 *Sphaeroma mukaii* (和名:ヒガタコツブムシ、新称)として記載した。本種はヨツバコツブムシ *Sphaeroma retrolaeve* Richardson と類似するが、(1)雄第 2 腹肢内肢に交尾針があること、(2)第 1 小顎内葉上の羽毛状剛毛数が少ないこと、(3)胸肢上の長い剛毛数が少ないこと、(4)第 3,4 胸脚が比較的長いこと、(5)体表が比較的平滑であること、(6) 第 1 触角の鞭節数が少ないこと、(7) 第 2 触角の鞭節数が多いこと、(8) 顎脚の内葉が広いこと、(9) 額葉が長いこと及び (10) 発達した大顎の可動葉片があることなどで区別される。本種のコタイプは富山市科学文化センター (TOYA Cr-13163) で保管される。

北海道から発見されたニセウノ科等脚目甲殻類の 1 新種

布村 昇

北海道広尾の水族館で死亡したイザリウオの体内から発見された等脚目を、*Alcirona grandis* (和名: オオフタトゲニセウオノエ)として記載した。本種は St.Thomas から知られている *Alcirona krebsii* Hansen と最も類似しており、特に、体背面に多数の剛毛が密生していることで共通しているが、(1)剛毛の密生が腹尾節に限られていること、(2)腹部の 5 体節がすべて明瞭に区別されていること、(3)第 1 小顎の 2 つの鎌状の歯に明瞭な大小差があること、(4)腹尾節が幾分短く、後端が丸いこと、(5) 第 1 胸肢腕節が長いこと、(6)第 1 胸肢座節ならびに長節内縁に短い突起があること、(7)胸部基節板が大きく発達することならびに (8) 目が小さいことなどで区別される。本種のコタイプは富山市科学文化センター(TOYA Cr-13153)で保管される。

カンボジア、トンレッサ湖から発見されたエビノコバン属の1新種

布村 昇

カンボジア、トンレサップ湖から発見されたエビノコバン属の一種を新種、*Tachaea tonlesapensis* として記載した。本種はインドのカルカッタ から知られている *Tachaeasponigillicola* ともっと類似するが、(1) 腹尾節が狭いこと、(2) 雌の顎脚基部が広くなならないこと、(3) 両触角の鞭数が多いこと、(4) 目が小さいこと、(5) 大顎髭の剛毛が少ないことで区別される。本種のホロタイプ (TOYA Cr-13154) は富山市科学文化センターで保管される。また、近傍の市場で採取された極めて類似した標本が採取されたので相違点を記載した。

日本海浅海域ヤドカリ類 (甲殻亜目：十脚目：ツノガイヤドカリ科、ヤドカリ科、ホンヤドカリ科) およびツノヤドカリ属の1新種の記載

朝倉 彰

これまで日本海の潮間帯および浅海域から採集されたヤドカリ類を調べ、3科17属54種を同定した。この中には、1種の新種のツノヤドカリ (イザナミツノヤドカリ) が含まれる。これらの標本は主として富山市科学文化センターの所蔵標本、および京都府栽培漁業センターの本尾洋氏のコレクションによるもので、これにさらに国内外のいくつかの博物館の所蔵標本も調べたものである。これらのヤドカリ類の大部分は日本およびその近隣の温帯域に分布する種であるが、少数のインド-西太平洋に分布する種、および北太平洋に広く分布する種を含む。

環境因子と *Pinus parviflora* の針葉形質の関係

佐藤 卓

日本海側と太平洋側の間を結ぶ2本の子午線にそって、ゴヨウマツの針葉を採取し、そのサイズや針葉の解剖学的性質を調査した。針葉形質と環境要因との相関を考察し、針葉の長さは3月の降水量や積雪深、太さは日照量などと相関が見られた。樹脂道の大きさと数は7月の最高気温と相関が認められた。

短報

富山湾における鯨類の記録 (2005)

南部久男・山田 格

2005年6月21日に富山湾氷見市松田江浜で打ち上がった体長108cmカマイルカのメス1例について報告した。

富山県初記録の植物 (18)

太田道人

富山県で生育記録の無かった3種の植物、ヒメウス、ナガミノツルケマン、ツタバウンランを標本に基づいて記録し、簡単なコメントを加えた。

各種医療用画像診断装置の一般向け原理説明のための原理模型の開発 1

市川真史

近年医療機器として、X線CTやMRI、超音波エコーが普及してきた。これらの原理について断層画像を得る方法の違いを中心に、科学博物館で一般向けにわかりやすく説明するための、体験型展示装置の開発について、今回はX線CTを中心に報告する。

庄川で確認された昆虫類の記録

荒木克昌・小林周一

富山県では、稀少なオオギンヤンマ、スナアカネ、メスアカムラサキ、ムラサキシジミ、コハンミョウが、2005年に庄川において確認された。

立山における標高別の酸性雨と霧水の違いに関する調査結果 2004

朴木英治

立山の美女平、弥陀ヶ原、室堂平と富山市市街地の科学文化センターとで2004年に行った酸性雨の比較観測結果を報告した。その結果、酸性雨は観測点標高が高くなるほど弱まる傾向が見られた。しかし、美女平では富山市市街地よりも酸性雨が強まった月も見られ、主に富山平野を起源とする酸性物質の影響が出ていると考えられた。逆に、室堂平ではアジア大陸が起源と考えられる酸性物質の影響が見られた。

資料

富山市科学文化センターでの館務実習について—事例報告—

田中 豊

富山市科学文化センターにおける館務実習の運営方法について事例報告する。
博物館側にとっても学生にとっても、より良い館務実習を実施するにはどのような手法があるのか、館務実習の運営方法の改善を行った富山市科学文化センターの事例を紹介する。

富山県のトンボ (2005 年度記録)

二橋 亮・二橋弘之

2005 年 (調査日数: 150 日) に得られた知見を、採集・撮影記録とあわせて報告する。2005 年には、80 種 + 1 雑種が確認され、本県で新しく記録される種は無かった。2004 年の調査では確認できなかった、オツネントンボ、キイロサナエ、オジロサナエが再確認されたが、アオサナエは 2005 年も再確認できなかった。また、増加傾向の見られたハラビロトンボは、引き続き分布の拡大が確認された。大陸からの飛来種と考えられるタイリクアキアカネ、オナガアカネ、スナアカネ、イソアカネは 2005 年には 4 種とも確認され、スナアカネは 5 月に未熟個体も得られた。また、南方系飛来種であるオオギンヤンマ、ハネビロトンボも少数個体が確認された。